



2009/06/15 22:30:35

橋架け結ぶ森 ヤマネ好みに

「好評につき」2基目設置 北杜市の

国の天然記念物のヤマネヤリスなど樹上で暮らす動物のための歩道橋「アニマルパスウェイ」の2基目が23日、北杜市大泉町西井出の県道上に設置された。道路で分断された森と森をつなぎ、動物たちを保護する目的。1基目は、多くの動物が利用していることが確認されている。

(相原愛)

「アニマルパスウェイ」は、1辺約25メートルの三角形のアルミの枠をいくつもつなぎ、底の部分に金網を張っている。22日から組み立て作業を始め、財団法人キープ協会、キープやまねミュージアムや清水建設、大成建設、NTT東日本などをつくる研究会のメンバーが参加した。

きっかけは1996年。清里に高原道路が建設された際、ミュージアムの妻秋作館長が、動物たちのすみかやエサがなくなり、異性との出会いも失われて生存が危うくなることを懸念。2千万円を投じて金網の橋「ヤマネブリッジ」を造った。



① 1基目のアニマルパスウェイを通るヤマネキープやまねミュージアム提供 ② アニマルパスウェイの設置準備をする研究会のメンバーら 北杜市大泉町西井出

研究会 三角構造を開発 費用9割減 市が全額負担

角形の橋を開発した。費用も約200万円におさえ、北杜市が負担してくれることになった。

清水建設の岩本和明・地球環境部長は「アニマルパスウェイは、みんなのノウハウを持ち出し出来ている」と話す。

07年7月、1基目を市道上に設置した。高さ約9メートルの電柱に、長さ13メートルの橋をかけた。雪よけ用の屋根と天敵から身を守る「待機所」も備え、カメラを2台設置して様子を観察した。

その結果、昨年7月までに1012回の利用が確認された。最も多かったのは、ヒメネスミの787回。ヤマネは208回でリスやテンが続く。多い時間帯は午後6時から朝4時。ヤマネは、屋根の下に張ったロープをつかんで、逆さに歩く姿も確認されたという。

2基目の設置にあたって、研究会のメンバーは、リスとヤマネの生息が判明した場所にテープをはった。道路の両側にテープが集中し、タカなどに狙われないように葉が生い茂った木がある場所を選んだ。

屋根を保つために、屋根は濃い茶色に塗り、木に見せかけた電柱に橋をかけた。

渡館長は「人間と動物が共生するための具体的な施策の一つ。車の社会の人間には道路が必要で、動物には生きていくための森が必要。(アニマルパスウェイを)全国的に広めていきたい」と話した。